

歯科医の私が言うのも可笑しいが、昔からの私の中の歯科のイメージは、キーンという音と診療室の外まで聞こえる子供の鳴き声である。子供に限らず、人は何歳になっても歯科を受診することに恐怖心を持つものだ。

歯科治療、すなわち口の中の治療や、顎・顔面領域の治療は身体他の部位と異なり、脳に近いこともあって恐怖心が一層強くなる。

さらに歯科医療の特色であるが、内科などの医科と違って、歯科では必ず何らかの「処置」を必要とすることがほとんどであり、このことも恐怖心につながる。

これらの恐怖心から治療を受けるのに足が遠き、結果、口の中はより重症になってしまいうケースが多くみられる。

近年、この歯科治療の恐怖心を取



り除くため、臨床において「精神安静法」が応用されている。

この「精神安静法」は大きく分けて二つの方法がある。①笑気ガス吸入鎮静法、②静脈内鎮静法である。

前者は鎮静作用のある笑気ガスを鼻から吸いながら処置を行う。後者は主にドルミカムなどのベンゾジアゼピン系の精神安定剤を静脈内に投与し、ほぼ眠りに近い状態にしながら治療を行う。両方とも安全な方法であり、歯科治療が苦手な方にとつてはとてもありがたい方法だ。

「歯科は恐くない！最新治療でリラックス

私たちのクリニックでは、より効果の高いドルミカム静脈内鎮静法を多く行なっている。

これは胃などの内視鏡検査の際にも使われている方法で、嘔吐反射の抑制にも効果がある。

これに使われるドルミカムは患者さんの恐怖心を取り除くだけではなく、強い健忘効果が期待できる。

すなわち歯科処置後、目が覚めた時には、患者さんは口の中に麻酔注射をしたことや歯を抜いたり削ったりしたことなど、処置の内容をほとんど覚えていないという効果だ。

これまで歯科領域では、歯科恐怖症や不随運動を伴った脳性小児麻痺など、特定の症状を持った患者さんに精神安静法を応用してきたが、近年、一般の歯科治療やインプラント治療の際にも希望する方が増えてきた。

インプラント治療、親知らずの抜歯と、時間を要する治療には特に効果的である。

「もう少し我慢してください」と我々、歯科医が患者さんに我慢を強いる場面が劇的に少なくなるのだ。そう

いう場面が減るということは、当然患者さんは、リラックス状態で治療を受けていただけることになる。

我々術者にとっても治療の「しやすさ」という点でもメリットは小さくない。楽な気持ちで集中して、より治療に専念できるようにもなる。

もし、歯科治療やインプラント治療を考えているにもかかわらず、歯科に対する恐怖心や、治療の怖さから躊躇している方がいたら、この安静法を歯科医にお尋ねになり、ぜひ一度経験していただきたい。

この、人にやさしい治療法は日本では徐々に普及してきている。が、諸外国ではまだ発展途上だ。私は、昨年より中国・北京でもインプラント治療を行っているが、アジアでは精神鎮静法の概念すらまだ普及していない。次回は海外のインプラント事情に触れてみたい。

顎関節症

ドライマウス

舌痛症

亀井英志
KAMEI HISASHI

ストレスは

見える！

すべては「噛みしめ」が原因だった

気がつくとも歯を食いしばっている。…心当たりの方は、当コラムの亀井医師の著書「すべては「噛みしめ」が原因だった」をお読みいただきたい。「未病」の原因をまとめた良書です。

亀井英志(かめいひでし)

1951年群馬県前橋市生まれ。76年東京歯科大学卒。都立病院歯科口腔外科医を経て、84年より長栄歯科クリニック院長。臨床ゲノム医療学会理事。

